

米国大学に在籍する留学生数は継続して増加する一方、
海外留学する米国人大学生数の増加率は鈍化（11月17日）

国際教育研究所（Institute of International Education : IIE）は11月17日、大学生の留学状況に関する報告書「2014年国際教育交流オープン・ドア報告書（2014 Open Doors Report on International Educational Exchange）」を発表した。

これによると、2013-14学年度に米国大学に在籍した留学生数は前学年度比8.1%増の88万6,052人で、史上最高となった。米国大学に在学する留学生の出身国は、中国人学生が全体の31%を占め、学生数も前学年度比16.5%増であった。この他、留学生数の増加率が高い国はクウェート（42.5%）、ブラジル（22.2%）、サウジアラビア（21%）で、これらの国は政府が積極的に留学生向けの奨学金制度に投資している。

また、在籍留学生数が最も多い大学はニューヨーク大学（New York University）であった。一方、2012-13学年度に海外の大学に留学した米国人学生数は前学年度比2.1%増の28万9,408人であったが、増加率は前学年度からやや減少した。留学先は英国が最も多く、以下、イタリア、スペイン、フランス、中国が続いた。

Institute of International Education, Open Doors 2014: International Students in the United States and Study Abroad by American Students are at All-Time High
<http://www.iie.org/en/Who-We-Are/News-and-Events/Press-Center/Press-Releases/2014/2014-11-17-Open-Doors-Data>